

令和2年度 第2回学校運営協議会議事概要

1 日時 令和2年10月29日（木）
開会 13時27分 閉会 15時06分

2 場所 岡山県立玉野高等学校会議室

3 出席者

委員	五老海	正 登	委員	福 本 泰 久
委員	稲 田 秀 知	委員	藤 原 直 之	
委員	大 塚 雅 嗣	委員	水 田 忠 和	
委員	田 中 久 美	委員	山 崎 裕 正	
委員	豊 田 啓 介	委員	山 根 一 人	
委員	西 川 竜 馬	委員	山 多 也	

事務局 教 頭 橋 本 文 彦
主幹教諭 守 屋 泰 志
教務課長 竜 門 巧 生
事 務 長 立 野 弥 生

4 議事の概要

開会

(1) 説明

主幹教諭が、学校経営計画及び目標達成に向けた具体的方策の中間期までの取組状況及びその評価について説明した。

教頭が、9月初旬に実施した教職員対象の中間評価アンケートの結果について説明した。

(2) 講話

山崎委員が、次のような内容で講話をした。

- 2022年からスタートする「総合的な探究の時間」（以下「探究学習」）を、進路実現にどう結びつけるかが重要テーマである。
- 大学は既に、「活動歴」よりも、「活動を通して発揮した力」などを評価しようとしている。つまり探究学習が目指している力を見ようとしている。
- 探究学習では、「何をやったか」ということよりも、「活動を通して、自分の果たす役割」「そこで生かせる自分の強み、特徴」を自分の言葉で伝えることが重要である。
- 探究学習で育成しようとする力を先取りして、進路実現を果たす生徒を育てることが、普通科高校である玉野高校のめざす方向ではないか。

(3) 意見交換

3つの小グループに分かれて、①地域で高校生を育てる方策、キャリア教育を進めていく上で、地域として何ができるのかの提案、②これからの玉野高校の学校づくりについての提案 について意見交換した。

【地域】この地域の良さに気づかせることが大切である。歴史や魅力、人と人との繋がりや世の中の仕組み等を学ぶことが重要である。地元の子供が地元で学び、将来的に地元で活躍することに繋がる。

【探究活動、入試(進学)】「何を学んだか」「何ができるか」という問いに対してははっきりと言葉で表現することが大切であるので、アウトプットする場面を作り、表現力を高める活動が必要である。

【インターンシップ】インターンシップを“体験させる”だけでは時代遅れで、量から質への転換が必要である。学校側が主体的に「こういう生徒を育てたい」と提案するプログラムを開発する必要がある。

【学校の売り】玉高の明確な「色」や「売り」や「方向性」を出す必要がある。「何にでもなれる！」ではなく、「〇〇〇になれる！」「〇〇〇ができる！」と明確にポリシーを発信していくことが求められている。

閉会